

みどりの 東北

MIDORI NO TOHOKU



本州最低標高地のハイマツ群落（白神山地・小岳） [提供：藤里森林生態系保全センター]

特集

高齢級秋田杉の販売・普及推進の取組 [資源活用課]

CONTENTS

■美しい森林づくり

山形豪雨での民有林支援・獣害対策での民有林連携…………… [置賜森林管理署]

■我が署の名所

『ケヤキ並木』と『ジャズフェス』（宮城県仙台市）…………… [仙台森林管理署]





高齢級秋田杉の販売・普及推進の取組

資源活用課



天然秋田杉の森（仁耐水沢スギ希少個体群保護林）

1. 日本三大美林、天然秋田杉

東北森林管理局が所在する秋田県には、日本三大美林の一つである天然秋田杉が存在します。その材は年輪幅がそろい木目が細かく強度に優れ狂いが少ないとされ、天井板や建具などの建築材や、曲げわっぱや桶樽等の工芸品に利用されてきましたが、資源の枯渇状況等から平

成24年度で天然秋田杉の計画的伐採を終了し、今では倒木や落枝により周囲に危険が及ぶおそれのある枯損木等が時折伐採されるのみとなっています。

2. 「あきたの極上品」ブランドとしての「高齢級秋田杉の販売へ」

天然秋田杉の計画的伐採が

終了した一方で、秋田杉人工林が高齢化してきていることから、天然秋田杉に代わるブランドとして高齢級秋田杉の販売・普及に力を入れて取り組むことになりました。高齢級秋田杉のブランド化を林業・木材産業関係者のみならずオール秋田で促進し、さらには木材需要の拡大につながるため秋田県と東北森林管理局は、平成26年度に「秋田を元気にする緑の覚書」を締結し、協力して新たな木材需要の創出に取り組むこととしました。その活動の一環として、県内の林業・木材産業関係者により高齢級秋田杉のブランド化に向けた意見交換会を開催し、ブランド力の向上について検討を開始しました。

その結果、平成27年度に林齢

80年生以上の高齢級秋田杉で末口直径が36cm以上、長さ4m、日本農林規格1〜3等に該当するものが「あきたの極上品」に位置付けられ、平成28年度からは国有林で先行して、そのブランドでの販売を開始しました。

「あきたの極上品」に該当する高齢級秋田杉が市場に出材された際には、ロゴマークを丸太に貼る等してPRしています。

引き続き森林所有者や事業者への周知を図りながら、製材品や民有林材へと用途を広げ、高齢級秋田杉の販売・普及に向けて官民連携して取り組んでまいります。

※「あきたの極上品」…秋田県が販売力強化のためにブランド化を図る優れた県産農林水産物。



あきたの極上品の出品されている様子



あきたの極上品のロゴマーク

3. 高齢級秋田杉製品の

PRと活用の推進「秋田杉桶樽サミット」の開催

高齢級秋田杉の用途の1つに、伝統工芸である桶や樽がありま
す。東北森林管理局は関連団体

と協力し、秋田杉の桶と樽の美しい木目や香り、吸湿性や断熱性などの特徴を再評価・アピールするとともに、新たな活用方法を検討し桶と樽を含めた木材利用の促進につなげることを目的として、昨年10月に秋田拠点センター・アルヴェにおいて「秋田杉桶樽サミット」を開催しました。

会場では様々な桶と樽の展示、酒樽の製作実演、桶樽の製造工程パネル展示、木桶仕込みの日本酒の試飲、おひつで保存したご飯の試食、鏡割り体験、桶組体験などの各ブースを設置し、秋田杉の桶と樽及びその文化的な価値や技術的な特性を来場者にPRしました。

また、桶樽に関する講演や桶や樽の製造者や利用者、消費者、学識経験者等によるパネルディスカッションを開催し、最後に「あきたの世界戦略・秋田杉の桶と樽の活用宣言」として、秋田杉の桶と樽の良さを世界にアピール・発信していくことが宣言されました。

高齢級秋田杉の普及・活用推進のためにも、今後もこうしたイベントを通じて、積極的に情報発信に努めていくこととしています。



秋田杉桶樽サミット会場の様子



おひつに移したご飯の試食（提供：株式会社花善）



新政酒造株式会社で使用されている大桶



展示された様々な桶樽製品等（提供：秋田杉桶樽協同組合）



美しい森林づくり

山形豪雨での

民有林支援・獣害対策での民有林連携

置賜森林管理署

1. 山形豪雨での民有林支援

令和2年7月下旬、山形県内を豪雨が襲い最上川が氾濫し各地に甚大な被害が発生しました。置賜森林管理署管内の国有林については幸いにも大きな被害はありませんでしたが、関係市町村等へ被害の状況など無人飛行機を活用した支援も可能である旨伝えたところ、南陽市水林地区の共同施業団地内の民有林林道において、甚大な被害が発生し、南陽市からの協力依頼を受け、無人飛行機を活用した災害調査を実施しました。

当該地区は、平成25年、26年の2年連続して発生した豪雨災害地区であり、森林の適正な管理・災害防止や被害軽減を図ることも期待して、平成29年度に民国連携の森林づくりに向けた共同施業団地の協定を締結しています。



市職員とドローンによる調査の様子

今回の豪雨災害では、国有林のICTの技術等を活用した現地調査などの支援が期待されていることを改めて認識し、今後も地域等からの意見要望に耳を傾けながら、積極的に民国連携を推進し、より良い森林づくりに努めていきます。



空から被害状況確認

2. 美しい森林を守るため、

民国連携した「クマ剥ぎ防止対策」の策定

近年、置賜地域では「クマ剥ぎ」による森林被害が目立つようになり、民有林では山形県が主体となり「クマ剥ぎ防止対策」を実施していますが、置賜森林管理署の所在地である小国町内の森林所有者からも小国町役場や森林組合へ「クマ剥ぎ」の相談件数が増加しており、当署管内でも「クマ剥ぎ」の被害状況が顕著であるため、関係機関等が連携した早急な「クマ剥ぎ防止対策」が求められており、置賜森林管理署でも喫緊の課題となっています。

そこで、小国町で森林整備推進



この変色状況から林分の5割以上の被害が予想される。

全周囲を剥がされて立枯れて変色したスギ



根の全周囲を剥がされたスギ



「小国町内クマ剥ぎ対策検討会」事前打合せ



山形県主催のクマ剥ぎ対策研修会

協定を締結している協定者が実施主体となり町民を対象にした「小国町内クマ剥ぎ対策検討会」を10月に開催することを決定し、その準備として、8月下旬に協定者の山形県林業公社・小国町森林組合・小国町役場・置賜森林管理署の4者と山形県置賜総合支庁とで、現地踏査による被害状況把握や打合わせ会議を開催し、10月に開催する検討会についての方針や課題等について活発な議論を交わしました。

10月開催予定の「小国町内クマ剥ぎ対策検討会」終了後は、検討会での意見等や今後の方針等など当署のホームページで紹介することにしておりしますので、ご覧下さい。



指標植物

三八上北森林管理署 地域統括森林官 松尾 亨

コーヒー党や紅茶派など嗜好性は人それぞれ、そのときの気分や雰囲気では好みは変わってきますが、植物たちもそれぞれ住処には嗜好性があり、湿ったところ好きや乾燥地好き、また、土壌や地質による嫌気性などで生育場所はほぼ決り、山火事や土砂崩壊など大きな災害がなければ生育場所の好みの変化はありません。造林樹種を選択ではその性質を利用して、一定の植物の出現度から指標となる植物を見立て、土壌の乾湿性や地質などを知ることができます。昔、山師（鉱脈を探す人）は路頭の岩に生えるシダのヘビノネコザを金鉱や銅鉱の指標にしたそうですが、今回は林業で土壌の乾湿性の目安となる指標植物についてクイズ形式でお話します。

以下の表は秋田県能代市のななくら七座山の指標植物です。
(七座山は9月号森林官からの手紙で紹介)

| 土壌の指標 | 高木性の樹木 | 灌木等 | 草本類 | 造林適合樹種 |
|-----------|--------------------------|------------------|----------------------|-------------------|
| 乾燥地に多い | アカシデ、マルバマンサク、コナラ、アカマツ | ヤマツツジ、ホツツジ、ヤマウルシ | ワラビ、ススキ、ツクバネ、ククルマユリ | アカマツ、カラマツ、コナラ |
| 適潤地に多い | ミズナラ、ホオノキ、センノキ | オオバクロモジ、アワブキ、キブシ | モミジガサ、ナライシダ、ツルリンドウ | スギ、カラマツ、ヒバ、ブナ、ヒノキ |
| 湿潤、過湿地に多い | サワシバ、トチノキ、サワグルミ、ヤチダモ、カツラ | アブラチャン、オノエヤナギ | リョウメンシダ、ウワバミソウ、アキタフキ | スギ、トチノキ |

ぎょうかいがん七座山は凝灰岩を基岩に褐色森林土が分布し、標高30m~260mの米代川と阿仁川の沿いの天然林です。沢筋はサワグルミやクロビイタヤ、斜面上部は土壌が薄く尾根筋は陰しく乾燥気味ですが、天然スギが全面に分布し天然更新のスギの生態が見られる森林です。今回はA~Cに指標となる植物の特徴がわかる写真を載せています。写真を見て乾燥地、適潤地、湿潤・過湿地の3つに分類してみてください。答えは最後のページです。

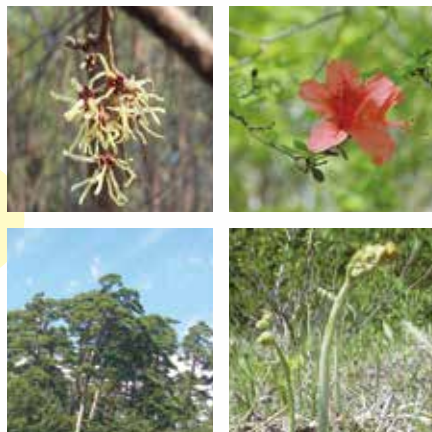
森林の植物で指標となるものは、風雪で風下に枝をつけるアオモリトドマツや、開花時に花芽が北を向くキタコブシ、酸性土壌に強いイチイやヒバ、アルカリ性に強いハマナスやアキグミ、肥沃土壌のツリフネソウやクサギ、痩せ地のアカマツやヒカゲノカズラなど指標も色々あります。指標植物の知識は「目安やものさし」として使える大事な森林技術で、現場やディス

クで長年助けられてきました。植物のような定型的な指標もいいですが、人生の指標や嗜好性は、定型的な「ものさし」では測りきれない「あそび」も大事にしたいですね！

A



B



C





最近の職場内訓練 (OJT)を紹介します。

三八上北森林管理署

当署では新規採用者を含む若手職員7名を業務に関する専門的技術の習得・向上を目的にOJTの対象者として、年間計画に沿って実施してきております。また、このOJTへは対象者以外の職員参加も認めております。

対象者の7名はOJTの予定に合わせ、当然ではありませんが日頃から担当業務の調整を図りながら、強い意気込みをもって参加しています。

昨今のコロナ禍における現状の中、中央研修等が中止となっており、OJTは貴重な機会と



レベル測定の練習中

捕らえ、指導する側も今後の国有林野事業を担う人材としてより一層成長するよう指導しております。

また、林道特殊修繕工事発注のための測量設計もOJT対象職員により、5～6月の3日間で実施しています。

【十和田燐寸軸木工場の見学】

7月16日(木)に、十和田市にある十和田燐寸軸木株式会社にて、当署の若手職員を中心とした11名が工場見学を行いました。

同社は、現代の物流社会では欠かすことのない木製パレット・木枠梱包用材を主要事業としており、その際に生じるのこくずや粉砕バークも家畜用敷料や長芋の梱包用として丸太1本1本から余すことなく商品として販売しています。

平成31年に生産性向上のため工場を新設、東北では初となる無人製材機を導入し、最大200m/日の丸太の処理が可能です。しかし、現在は新型コロナウイルスの影響により生産量が4～5割減の状況にあるそうです。

無人製材機(ロボットツインバンドソー)は、製品サイズを入力するだけで自動的に製品が仕上がります。有効的に材が取れるよう丸太の特徴を機械が瞬時に判断し、切断ラインを決め

た後、丸太を転がしながら二枚の刃で両側から一気に切断するところまで全て機械が自動で行う技術には圧倒されました。今後益々工場の無人化が進み、人手不足問題の改善や低コスト生産が実現していくのかなと感じました。



無人製材機

【大畑ヒバ施業実験林の見学等】

青森県内の青森、金木、下北の3(支)署は、管内のヒバ林を「ヒバ林復元推進エリア」に設定して、主に天然林更新によりヒバ林を復元する「ヒバ林復元プロジェクト」に取り組んでいます。

今、青森県全体がヒバ林復元に高い関心を示し、盛り上がりを見せている中、当署の若手職員の間には青森ヒバに馴染みがない(当署のヒバ林はごく僅か)状況にあります。このため、下北森林管理署に大畑ヒバ施業実験林の見学と青森ヒバの特性等の勉強会の企画を依頼したところ快く引き受けていただきました。



実験林見学前に座学指導

7月27日(月)午前、下北署入札室において総括森林整備官等より、青森ヒバの特徴、木材としての使われ方、流通経路、

大畑ヒバ施業実験林の設定目的やこれまでの取組等丁寧な説明がありました。

また、同日午後は「大畑ヒバ施業実験林」内の旧森林鉄道の軌道跡を歩きながら、更新方法、伐採後の蓄積推移等の説明をしていただきヒバの大径木に圧倒された後、大先輩方が手掘りで掘った真つ暗なトンネルを通過したり、吊り橋を渡る等貴重な体験をさせていただきました。本見学会に参加した10名は、日本三大美林のひとつでもある青森ヒバの特性や木材として価値の高さ等を知ることができとても有意義な一日となりました。



実験林内での説明

【採材検討会と

A-1丸太検知くんの実演】

7月30日(木)に当署主催で採材検討会を開催しました。参加者は林業事業者、地方自治体の林業担当者、局署の担当者など計62名となり、当署の若手職員は5名参加しました。

青森事務所担当者から「一口ナ禍における木材生産は、製材所、LVL工場等の様子を見ながら民有林材の動向にも配慮したきめ細かな採材が必要」等の現状紹介があり、引き続き当署担当者から、採材検討をする際の注意事項等について説明をしました。

その後、3班に分かれてスギ等の採材検討が行われましたが、各班それぞれに経験豊富な事業者の皆さんが配置されており、材の欠点等により長級を決定した旨の説明がありました。当署若手職員が口を挟む余地はなく、生産現場特有の専門用語(十訛り)が飛び交い意味を理解するのに必死でした。



広葉樹の採材を検討中

最後に、ICTを活用した素材検知を参加者が体験しました。スマートフォンで撮影した写真を、アプリケーションを用いて検知を行う「A-1検知くん」の紹介と操作方法について詳しく説明があり、我が職場にもヒシヒシとA-1が浸透してきていると実感しました。



AI 検知くんが丸太小口を解析中

72年前の水害の記録 アイオン台風被害写真展 岩手南部森林管理署遠野支署

アイオン台風は、終戦から間もない昭和23年（1948）9月に東日本を通過して全国で512名の犠牲者を出し、特に、岩手県に大きな被害をもたらした。国有林では遠野、川井両営林署の管内などに甚大な被害が発生しました。

遠野支署の前身である遠野営林署管内では、早瀬川が氾濫し、その川辺にあつた遠野貯木場が濁流に沈み、森林鉄道の機関車4両をはじめ、多くの施設や木材を喪失したほか、猿ヶ石川沿いに敷設されていた森林鉄道（附馬牛林道）に壊滅的な被害が発生しました。

早池峰山の北側の門馬村（現宮古市・三陸北部署管内）では、距離にして1km、面積にして28haの大規模な崩落が発生して下流の宮古市に多数の死傷者を出しています。この崩落地は、後に「アイオン沢」と命名され、

62年をかけて治山工事が行われました。



水没する遠野貯木場 左は旧釜石線

未曾有の大災害に際して、東北森林管理局の前身である青森営林局は、局員を派遣して、遠野営林署管内の被害状況を調査し、その記録として「遠野営林署管内水害状況写真」を作成しました。現在、その原本の行方はわからなくなっていますが、当支署が行っている遠野の森林鉄道に関する調査・報告に際して、当該写真を接写していた市民の方から、その電子データの提供を受けました。この写真は、濁流に沈んだ材木町の貯木場や壊滅的被害を受けた森林鉄

道、当時の附馬牛村の被害などが写っている貴重な資料です。

遠野支署では、これらの写真と遠野市立博物館から提供を受けた「アイオン台風水害記録」（昭和23年9月、遠野アミヤ写真技術部）の写真（遠野営林署が撮影した写真が含まれる。約60点を、遠野市役所の多目的市民ホールで9月15日から30日までの半月間展示して、市民の皆さんに御紹介しました。開催に際しては、岩手県遠野土木センターから洪水浸水区域想定図を、遠野市消防本部からは気象災害時の避難行動の展示物を提供されています。



流された早瀬川の森林鉄道の橋梁



土砂に埋もれた水田から稲を掘り出す附馬牛村民

開催準備の過程では、記録写真の撮影者である青森営林局員の笹森秀雄氏（青森林友会写真部のリーダー）が、日本の山岳写真界の草分け的存在であつて、国際サロンで入選していたことなども明らかになりました。

期間中には、遠野市内外からアイオン台風を経験した世代を中心に、多くの方が来場して、災害の恐ろしさを再確認するとともに、写真に写っている72年前の風景を見て、幼い頃の記憶を懐しく思い出していました。

近年、大雨による災害が全国的に多発している中で、郷土における過去の災害の記録に接して防災に役立てていただければ幸いです。



森林官からの手紙

毎日が勉強です!

秋田森林管理署 森林官 畠山 郁



真昼岳林道から見た仙北平野

私が勤務する千屋森林事務所は、仙北平野の南東部に位置する仙北郡美郷町にあります。管轄する区域は大仙市（中仙・太田地区）及び、美郷町内の国有林約一万六千ヘクタールを担当しています。管内は大半が「真木真昼岳立自然公園」に指定されており、真木渓谷や川口渓谷など優れた景観を有しているため、雪解けから降雪前まで登山客・観光客が途絶える事なく、人気の場所としていつ行っても賑やかです。では、管内の見所をご紹介します。

「真昼岳」

真昼岳は美郷町と岩手県との県境にそびえており、オサバグサなどの高原植物の群生地やモリアオガエルの生息地があります。南真昼岳、北の又岳からなる山頂からは仙北平野を眺望することができます。

「六郷湧水群」

美郷町では奥羽山脈を水源とする小河川が扇状地を形成し、その扇状地にある六郷地区を中心に百二十六箇所もの湧水が点在しています。全国名水百選などに認定されており、水五冠の街としても知られています。水温が年間を通じて十五度前後のきれいな湧水には、氷河期の生き残りといわれる淡水魚のイバラミトヨが生息しています。

また、水源の一つ、七滝水源かん養保安林では地域の児童・住民が参加し、ブナなど広葉樹の植樹会を毎年開催しています。水源としての森を守る活動が評価されて、林野庁の「水源の森百選」に選定されています。



秋田藩主佐竹義隆公が料理用に使用した「御台所清水」

「オブ山の杉」

大仙市太田、川口渓谷風景林内にあるオブ山の杉は、幹周り三十四メートル、推定樹齢千年以上と言われています。太田町教育委員会（当時）の調査で、県内一の太さであることが判明し、こちらも「森の巨人たち百選」に選定されています。



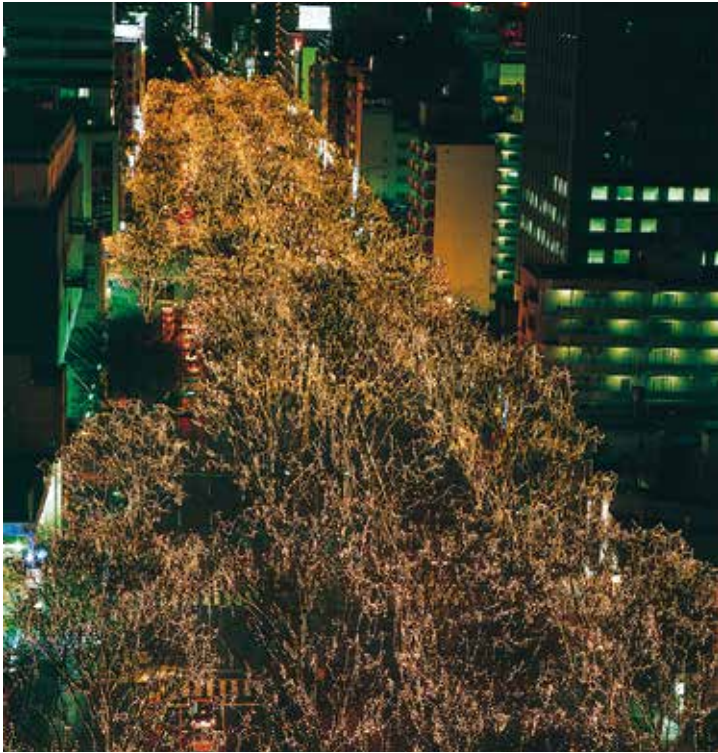
オブ山の杉

他にも、二月に開催される六郷のかまくら（竹うち）や七月初見頃を迎えるラベンダー園など、春夏秋冬見所がたっぶりありますので、ぜひ足を運んでみてください。



ホワイトラベンダー「美郷雪華」

最後に私ごとになりますが、平成二十二年に東北農政局より異動してきてから、早いもので十年が経ちました。異動当初、自分が森林官となり現場に出る事など想像すらしていませんでした。森林官となって一年半。農業から林業へと畑違いの仕事は今も戸惑いの連続です。現場にいると何年もかけて造られてきた自然の雄大さを感じる反面、脅威や怖さを身をもって感じる事が多々あります。これからも、周りの方々にたくさんのお話を教えて頂きながら、国有林を適正に管理し、後世に伝えていくために、安全第一で業務に取り組んでいきたいと思っています。毎日が勉強です!



【写真右上】 定禅寺通のケヤキ並木
(写真提供：無料写真素材サイトせんぴく)

【写真左上】 「SENDAI光のページェント」の様子
(写真提供：宮城県観光課)

【写真右下】 「定禅寺ストリートジャズフェスティバル」の様子
(写真提供：宮城県観光課)



我が署の名所

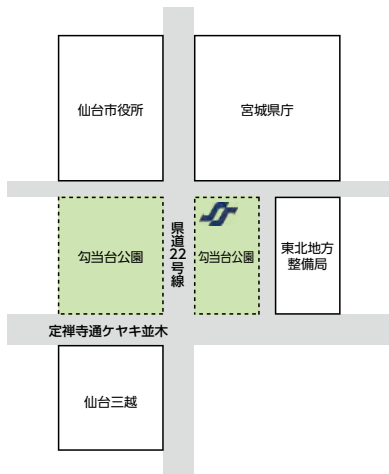
『ケヤキ並木』と『ジャズフェス』

(宮城県仙台市)
仙台森林管理署

仙台駅から地下鉄南北線に乗り「勾当台公園駅」で下車、そこに仙台市の中心「勾当台公園」があります。周りを県庁や仙台市役所等官庁街が取り囲み、通りの一角に日本の道100選に選ばれた「定禅寺通ケヤキ並木」があります。仙台空襲で焼け野原になった中心街を復興するため、ケヤキの苗木を国有林から供給し整備を行い、以降今日までおよそ70年にわたり仙台の街の発展を見守り続けてきました。

この場所は春の「青葉まつり」にはじまり、年間を通して様々な催し物が開催される場所でもあります。中でも、7月にセミプロ以上が参加する「ジャズブROMナードin仙台」、そして9月には市内約100カ所で延べ700組以上のバンドが参加する「定禅寺ストリートジャズフェスティバル」が開催され、市内全域で様々なジャンルの音楽が溢れ、どこでも無料で聞くことができます。また、12月には「SENDAI光のページェント」が開催、数十万個の電球を着飾ったケヤキ並木を見ることが出来ます。

今年も新型コロナウイルスの影響で、残念ながら中止となったイベントもありますが、並木を挟んで公園の向かい側には、東北一の繁華街「国分町」もあり、グラスを片手に素敵な時間を過ごしてみませんか。



◎勾当台公園へのアクセス
地下鉄南北線勾当台公園駅下車
徒歩0分

◎仙台森林管理署
〒981-0908
仙台市青葉区東照宮1-15-1
TEL 022-273-1111
FAX 022-273-1115

